

本論文では、地理情報システム (Geographical Information Systems: GIS) を用いて、歴史分野の研究に対して、新たなアプローチと知見を提供することを目的としている。歴史空間に対してGISを適用するHistorical GIS (HGIS) と呼称されるアプローチは、GISが持つ空間分析機能やデータベース管理といった特徴を有した研究領域として、近年、その地位を確立しつつある。しかし、これまでのHGISの研究は、歴史研究の分野で蓄積された学問的な知見を踏まえていないことが問題点として挙げられる。本論文では、HGISが次の段階へと進むための実証研究として、以下の3事例に取り組んだ。分析対象となる歴史資料は、地図、地誌、絵画史料といった歴史研究上の代表的なものである。また、体系的に整備されていない時代の歴史資料においても、GISを用いた分析が可能であることを示すために、これらの歴史資料は選定されている。実証¹：近世京都において洛中を描いた最初の測量図を対象として取りあげた。洛中絵図の測量精度を、複数の分析手法を用いて視覚化した。この結果をもとに精確な京都の景観を復原することに成功した。実証²：近世地誌の代表格である名所案内記を取りあげた。名所掲載の有無を複数の名所案内記からデータベース化し、特定の期間ごとに地図化した。この結果から、近世を通じた名所の盛衰を読み取り、京都における名所の経年的な変化パターンを明らかにした。実証³：室町期から近世初期にかけて作成された洛中洛外図屏風を対象として、絵画に描かれた空間がいかに構成されたものであるかを考察した。絵画を実際の空間に位置づけて視覚化することで経年的な比較を可能とし、洛中洛外図屏風の構図を明らかにした。これらの実証研究では、これまでの歴史研究の手法では困難であった (A) 分析が不可能であった大量データを扱うこと、(B) 幾何学的分析の実施、(C) 歴史資料を空間的な視点に位置づけて分析を施すことをGISの援用によって実現している。そして、従来の歴史研究に対して、空間的視点から新たな解釈を促したのである。このことは、HGISが歴史研究において有意義な知見を得ることができることを、さらには学問領域として発展する可能性を大いに含んでいること示したのである。